



幸 浩子(みゆき ひろこ) 京都大学大学院エネルギー科学研究科

本論は、2011年から継続して実施している放射線出前授業の中から2014年度に実施した、高レベル放射性廃棄物処分についての幸式ワールドカフェ（複数の課題について、個々がブレインストーミングを連鎖させた結果を基に、グループで討議し結果をまとめて、発表を行うディスカッション方法）の結果に焦点を合わせて、放射線理解と高レベル放射性廃棄物処分の方法に関する小学校6年生の考えを分析し考察した。授業前に比べ授業後は、放射線に関心を持つとともにある程度の基礎知識を習得することがわかった。また、幸式ワールドカフェは子ども達の高レベル放射性廃棄物処分問題に対する考えを広げ深めることができたと示唆される。

◆ Mカフェは児童の考えの変容を調査、活動参加・発表の様子から定性的にも評価

本研究は2013-2014年度 住友財団環境研究助成133076に基づく。研究協力校の皆様、特に山形県谷地西部小学校5-6年生と田宮浩先生のご協力に心から感謝する。